

雲井保育園

園の近くの里山とそこにある杉林をフィールドにして木に親しむとともに、地域の人の協力を得ながら信楽焼の粘土で森の生き物を創作するなど、独自性のあるプログラムができました。

「ふわふわ、さくさく、木~もちいい♡」のプログラム

暗い杉林の中は落ち葉でいっぱいです。それぞれが好きな木を探して抱きついたり、観察したりして親しみ、落ち葉を集めたり、土と混ざった落ち葉をにおったりして葉っぱの役割を考えるプログラムです。



好きな木を選んで抱きついて温もりを感じる



木の表面はデコボコしてるなあ

木に毛が生えてる~



ルーペを使ってじっくり観察

どんな音が聞こえるかな？



葉っぱが粉々になって土になっていくんやなあ



カブトムシのにおいや~!

落ち葉は、土の中の虫のえさになるほか、虫の糞や土と混ざって木の栄養になることなど、自然の循環について伝える。

「ひとにぎりの粘土」のプログラム

この里山では、信楽焼きの粘土が採れます。その粘土を探して、園の砂場の砂と粘土の違いや粘土の特性に気づきながら、粘土で「森の妖精」のともだちを創作しました。楽しく遊んだ里山、創作した動物たちなど、何度も訪れたい場所になるような工夫を凝らし、身近なフィールドと継続的な関わりができるプログラムができました。



地域のおじさんから信楽焼の話をきく子どもたち



森の妖精登場
森での活動の約束と、森の中での友だちがほしいということを伝える。



こんなところに粘土があった！

森の妖精の友だちを作るための粘土探し



粘土はねばねばしてさわり心地がいいよ



森の妖精さん喜んでくれるかな？



森の妖精の友だちをたくさん作りました

参加された先生方の

声

自然の中で子どもたちに何を伝えたいのかという視点で、一つのことをいろいろな角度から掘り下げて考えることができ、他のテーマの活動にも活かせると思った。

信楽では小・中学校でも粘土を使うが、原土を使うことはない。今回の活動は小・中学校の活動につながっていくと思う。

これまでの保育でも自然の中で活動をしていると思っていたが、研修に参加して一歩踏み込んだ活動方法を身につけることができた。

他園の先生と一緒にプログラム作りや話し合いをしたことで、子どもたちをいつもとは違う目線で見ることができ、新鮮で、楽しく活動することができた。

保育の中に自然体験を採り入れることがなかなかできなかったので、とても勉強になり、参加してよかった。